

1000年先の未来へ。  
美しい里、豊かな海



かがわ里海大学2021 スタートアップ講座

# ウミホタル観察講座 (さぬき市会場)

開催しました!



- 日時 令和3年7月31日(土) 18:30~20:30
- 会場 東町自治会館・付近の護岸
- 講師 香川県立三木高等学校校長 塩田 浩之氏
- 講師アシスタント 谷 光承 氏(ウミホタル観察会を開くための講座修了生)  
安井 里香 氏(ウミホタル観察会を開くための講座修了生)

7月31日土曜日、さぬき市津田町鶴羽の東町自治会館及び津田埋立地付近の護岸にて、かがわ里海大学2021スタートアップ講座「ウミホタル観察講座」を、講師に香川県立三木高等学校の塩田浩之氏を迎えて開催し、19名が講座に参加しました。この講座は、水質の良いところに棲んでいるウミホタルを、ペットボトル容器で作成した採集器を使用して採集し、美しく光る様子やウミホタルの動きを観察することを目的に開催しました。

最初の講義では、ウミホタルをはじめ、光る生物について話がありました。解説の中では、一般的に混同されがちなウミホタルとヤコウチュウについて取り上げられました。どちらも夜は光が観察できますが、ヤコウチュウは「赤潮」として現れ、海中の生き物の生命を脅かす存在であることが説明されました。





その後、海岸へ移動し、ペットボトル採集器の仕上げを行いました。今回は餌として鯛ちくわを採集器の中に入れました。また採集器に砂利や海水を入れて、海中に沈みやすくなるようにしました。ウミホタルは暗い時間に活動するという説明があり、採集器を沈めた後は日が落ちて暗くなるまで、講師から星や風などの自然科学について話があり、受講者は興味深く説明を聞いていました。



沈めてから30分ほど経った後、採集器を引き揚げました。引き揚げるときに既に光っているものもありました。

採集器の中の海水をバットに移して揺らすと、青白い光を観察することができました。ライトを当てて観察すると、米粒よりは小さく、ゴマの粒よりは大きい多数のウミホタルが元気に泳ぐ姿が確認できました。

実際に手にとって触ってみると、青白い光が流れて見えるのが確認できました。ウミホタル自身が光っているのではなく、ウミホタルが出す物質(ルシフェリン)が酵素の働きで酸素と結びついて光ると説明がありました。



ウミホタルが様々な刺激を受けて光ることを利用して、講師による様々なデモンストレーションがありました。そのうち温度の刺激を利用した「ウミホタルのカクテル」については、氷水を使用してグラスの中で光る様子が披露されました。また、「ウミホタルのじゅうたん」は、振動などの刺激を利用したもので、地面にたくさんの美しい光が散る様子を見ることができました。

今回講座では、ますますの量のウミホタルが観察できました。美しい海に生息するウミホタルが、県内の他の海岸でも観察できるかどうか、自由研究やモニタリング調査で各自観察してみしてほしいと説明がありました。